

## メディアリリース

2018年4月25日

本資料は4月25日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版です

当グループの2018年第1四半期の税引前利益は前年同期比57%増の11億CHFとなりました。

2018年第1四半期の調整後ベース\*税引前利益は前年同期比36%増の12億CHFと、6四半期連続で前年同期比の利益<sup>1</sup>成長となり、過去11四半期で最高を記録しました。

四半期費用<sup>2</sup>は過去5年で最低水準となり、2018年第1四半期の追加的な正味費用削減額は恒常為替レートベースで2億CHFとなりました。

スイス・ユニバーサル・バンク(SUB)部門、インターナショナル・ウェルス・マネジメント(IWM)部門、アジア太平洋(APAC)部門のウェルス・マネジメント&コネクテッド(WM&C)事業で利益の伸びが加速し、これらの部門・事業を合わせた2018年第1四半期の調整後ベース\*税引前利益は前年同期比27%増の13億CHFとなりました。

ウェルス・マネジメント事業<sup>3</sup>の2018年第1四半期の新規純資産は前年同期比20%増の144億CHFと、過去7年間で最高を記録しました。2018年第1四半期末時点の運用資産も同9%増の7,760億CHFと過去最高を記録し、調整後ベース\*ネット・マージンは上昇しました。

インベストメント・バンキング&キャピタル・マーケッツ(IBCM)部門の純収益は、発行市場の活動水準の低下を反映して、(市場全体としては17%減<sup>4</sup>だったのに対し)米ドルベースで前年同期比8%減となりました。

グローバル・マーケッツ(GM)部門<sup>5</sup>は、2016年第1四半期に事業再編に着手して以降、最高の四半期純収益を記録しました。純収益は米ドルベースで前年同期比2%増(CHFベースでは同4%減)となり、調整後ベース\*税引前利益は米ドルベースで同6%増、CHFベースでは横ばいとなりました。

ルックスルーCET1比率は12.9%でした。

2018年第1四半期の株主帰属純利益は前年同期比16%増の6億9,400万CHFとなりました。当グループの2019年の税率は20%台半ばに低下する見通しです<sup>6</sup>。

株主資本利益率は上昇基調にあります。2018年第1四半期の有形株主資本利益率(RoTE)は前年同期の6.5%、前々年同期の約-3%から約8%に上昇し、2年間で約11%ポイント改善しました。

クレディ・スイスの最高経営責任者(CEO)、ティージャン・ティアムは次のように述べています。「現在、12四半期に及ぶ事業再編プログラムのうち9四半期を終えたこととなります。このプログラムに着手した2016年は、重大な戦略変更と事業再編の年となりました。2017年は事業の安定化と統合の年となり、2018年は実績を加速させる年とする計画です。

今回の第1四半期決算をもって、事業再編の3年目と最終年に向けて良いスタートを切ることができました。当グループは新しいビジネスモデルと執行能力に対する自信を持ちながら、将来に目を向けています。2016年と2017年の進捗によって、以前よりも質が高く、資本効率の良い事業構成をもって、資本の内部創出を増大させ、サイクルを通じて資本速度の加速と資本利益率<sup>7</sup>の向上を図りつつ、利益1単位当たりのリスク資本の消費を低減することが可能になり、純利益<sup>1</sup>は事業再編前の水準に近づきつつあります。資本利益率<sup>7</sup>を高め、資本消費を低減し、リスクを

管理することへの注力によって、株主資本利益率を長期的に高めることが可能になるはずです。

当グループは効率性を絶えず重視し、過去 5 年間で最も低い四半期コスト基盤<sup>2</sup>を達成する一方で、収益を拡大させた結果、プラスの営業レバレッジを生み出しました。

我々は 3 年足らずの間にクレディ・スイスを刷新しました。その中で、資本消費の低いウェルス・マネジメント事業と IBCM 部門の事業<sup>8</sup>を拡大し、マーケティング事業の活動<sup>9</sup>を適正な規模に調整する一方、超富裕層の顧客のニーズに対応するべく一連のスキルの連携向上を図っています。現在、当グループの中核事業利益の約 80%<sup>10</sup>はウェルス・マネジメント事業と IBCM 部門の事業<sup>8</sup>により生み出されており、3 年前の 41%から上昇しています。

当グループのウェルス・マネジメント関連事業である SUB 部門、IWM 部門および APAC 部門の WM&C 事業では、2016 年と 2017 年の 2 年間にわたる進捗の後、2018 年第 1 四半期も顧客重視で利益<sup>1</sup>を伴う成長が続きました。これらの部門・事業を合わせた 2015 年第 1 四半期の調整後ベース\*税引前利益は 7 億 9,800 万 CHF<sup>11</sup>でした。2018 年第 1 四半期には調整後ベース\*税引前利益は 13 億 CHF となり、3 年間で 61%(約 5 億 CHF)増加したことになります。この増加した税引前利益の半分以上が 2018 年第 1 四半期のみで生み出されており、顧客のニーズに対応し利益を伴う成長を達成する当グループの能力が高まっていることにほかなりません。

2018 年第 1 四半期の新規純資産<sup>3</sup>は 144 億 CHF と、過去 7 年間で最高を記録しました。2018 年第 1 四半期末時点の運用資産<sup>3</sup>も過去最高を記録し、ネット・マージン<sup>12</sup>は大幅に上昇しました。運用資産とネット・マージン<sup>12</sup>の双方を同時に拡大させるのは難しく、顧客(特に超富裕層の顧客)のニーズに対応するために投資銀行と資産運用の能力活用に注力するという当グループの戦略を通じて、はじめて達成できるものと考えています。

グローバル・マーケティング部門<sup>5</sup>は 2016 年に事業再編に着手して以来最高の四半期収益を達成しました。特に、当グループの戦略のカギとなる、超富裕層と機関投資家の顧客に質の高いカスタムメイドのソリューションを提供する ITS 事業が大きく寄与しました。当グループは市場依存度の高い活動に対する業績全体の依存度を下げることに注力してきており、これらの活動は適正な規模となり、リスクが低減されています。当グループは、現在、これらの活動は市場が逆風の時には底堅さを見せ、市場環境が追い風の時には上振れ要因となると考えています。

当グループは強力な資本基盤、市場をリードする事業基盤、そして長期にわたる低リスクでの資本の内部創出を目的とするビジネスモデルを武器に、収益性と品質の更なる向上を推進させる大きな好機があるとみています。クレディ・スイスは長期にわたり収益性の向上と株主価値の増大を達成する上で、良い状況を維持していると信じています。」

## 見通し

世界経済はアジア、米国、欧州では有望な成長見通しを示し続けていますが、需給の逼迫に伴いインフレが徐々に忍び寄っています。

地政学的な事象の続発、世界的な通商交渉をめぐる報道、金融政策の引き締めがもたらす結果を踏まえると、様々な市場と広範な資産でボラティリティが高まる局面が予想されます。特に当グループの市場依存度の高い活動では、これらの要因に対する顧客活動水準の感応度が依然として高い状況にあります。

ウェルス・マネジメント事業と IBCM 部門<sup>8</sup>の事業の成長力については引き続き自信を持っています。これらの部門は、2018 年第 1 四半期中核事業利益の約 80%<sup>10</sup>を占め、当グループが対象とする全地域の成熟市場と新興市場の双方で世界経済の成長の恩恵を享受することになります。

## ハイライト

- 当グループの2018年第1四半期の純収益は前年同期比2%増の56億CHFでした(2017年第1四半期:55億CHF)。
- 2018年第1四半期の調整後ベース\*純収益は前年同期比1%増(為替の影響を除くと同4%増<sup>13)</sup>の56億CHFでした(2017年第1四半期:55億CHF)。
- 2018年第1四半期の営業費用合計は前年同期比6%減の45億CHFでした(2017年第1四半期:48億CHF)。
- 2018年第1四半期の調整後ベース\*営業費用合計は前年同期比6%減(恒常為替レートベース\*では同5%減)の43億CHFでした(2017年第1四半期:46億CHF)。
- 2018年第1四半期の税引前利益は前年同期比57%増の11億CHFでした(2017年第1四半期:6億7,000万CHF)。
- 2018年第1四半期の調整後ベース\*税引前利益は前年同期比36%増の12億CHFでした(2017年第1四半期:8億8,900万CHF)。

## 脚注

\*調整後業績は非 GAAP の財務指標です。最も直接的に比較可能な米国 GAAP 財務指標に対する調整後業績の差異調整については、4 月 25 日に発表された英語版メディアリリースの Appendix をご参照下さい。

- 1 調整後ベース\*税引前利益を指します。
- 2 調整後ベース\*営業費用を指します。
- 3 SUB 部門のプライベート・クライアント(PC)事業、IWM 部門のプライベート・バンキング(PB)事業、および APAC 部門の WM&C 事業内の PB 事業に関連しています。
- 4 出典:ディールロジック、2018 年 3 月 31 日現在。米州と欧州・中東・アフリカ(EMEA)のみが含まれています。
- 5 システムティック・マーケット・メイキング・グループ(SMG)の収益(2018 年第 1 四半期は 700 万 USD、2016 年第 2 四半期は 8,000 万 USD)を除いています。
- 6 当メディアリリースの日付時点における入手可能な情報、ならびに経営陣の考え、予想および意見に基づいています。2019 年の実際の税率は異なる可能性があります。当グループは税源浸食・租税回避防止税(BEAT)制度の現時点の分析に基づき、当グループが2018年に当税制の影響を受けない可能性の方が高いとの見方を維持しています。ただし、BEAT 税制の適用については大きな不確定要素があるため、米財務省が追加ガイダンスを公表した時点で、この解釈を見直す場合があります。
- 7 調整後ベース\*規制資本利益率を指します。
- 8 SUB 部門、IWM 部門、APAC 部門の WM&C 事業および IBCM 部門を指します。
- 9 グローバル・マーケッツ部門と APAC 部門のマーケッツ事業を含みます。
- 10 文脈により、中核事業の調整後ベース税引前利益である 2018 年第 1 四半期の 17 億 4,200 万 CHF または 2015 年第 1 四半期の 18 億 4,400 万 CHF(スイスカードの税引前利益 1,200 万 CHF を除く)に対する割合であり、コーポレート・センターの調整後ベース税引前損失(2018 年第 1 四半期のマイナス 1 億 7,100 万 CHF と 2015 年第 1 四半期のマイナス 1 億 9,400 万 CHF)を除いています。
- 11 スイスカードの 2015 年第 1 四半期の税引前利益 1,200 万 CHF を除いています。
- 12 調整後ベース\*ネット・マージンを指します。
- 13 2017 年第 1 四半期と比較した 2018 年第 1 四半期の為替の影響(約マイナス 1 億 5,000 万 CHF)を除いています。